

各地の取り組み 兵庫県明石市

地域につながりや順送りが生まれる支援

明石市福里保育園子育て支援室 水田 啓子

柱になったNP

私は、明石市の子育て相談室で6年、保育園の子育て支援室で10年7か月を若いお母さん方や幼い子ども達と共に過ごしてきました。16年余り前に支援を始めた当初といえば、まだ市内に拠点となる場もなく、こちらが地域のコミュニティーセンターなどに出向いて活動をしている状況でしたので、お母さん方の「子どもを連れて気軽に立ち寄れる常設の場が身近にほしい」という願いは切実なものでした。平成14年度に初めてのプレイルーム=子育て支援の拠点を立ち上げ、年を経て、(市・企業・NPOと運営形態は違いますが)今では市内に6か所の子育て支援センターができてきています。県の「まちの子育てひろば」事業の推進もあり、本当にたくさんの親子の集いの場・拠点が年を追うごとに広がってきたように思います。

そういった中、さまざまな子育て支援の場で、いろいろな企画・活動・催しが展開され、あちこちと活動巡りをされている親子もあるようです。何か子どものためにしたい、でもどうやったらいいかわからない、出ていけば家で味わわせてやれない体験ができる、私自身も誰かと話がしたい…などなど、いろんな思いがあるようです。何もなかった頃に比べると、選べるほど活動や場があるのは幸いなことです。しかし、そうであっても、心うちは、やっとの思いで踏み出しておられたり、周りには見せない孤独感を抱えていたり、漠然とした焦りを感じていたりするお母さん方が確かにいる！18回NP(Nobody' Perfect)を重ねてきた中での実感です。

様子を見てみると「もう、いっぱいいっぱいなんだなあ」とか「ちょっと、ゆっくり子育てをふりかえる時を持てたら…」と感じられたり、保健センターから勧められて来ている親子もあるので、「お母さんと子どもに寄り添ってみていけるようになりたいなあ」「つながりができればなあ」という思いが湧いてきたりします。そんな時、「この人にこそ届けたい」と声をかけていけるNPがあることは、支援する私達にとっても救いであり、最後の(!?)砦でもあります。もちろん、NP経験者から「よかったよ!」と聞いて、自ら希望される方もありますが…。普段の活動では補いきれない所です。

親近感や信頼感が生み出され

NPは、子育てしているお母さんが自分の抱えている思いを安心して出し合える場をつくることで、日常の自分の子育てをふりかえり、自分のこだわりや感じ方に気づいたり、新たな視点を得てやってみようとしたりする場となっていく。



同じ輪の中で、「〇〇さんの話を聞いて、私もできるかも…がんばってみようと思いました」と言う人もいれば、「いいかつし過ぎるから、しんどくなつて子どもに当たってしまう。もう、がんばるのやめます!」と言う人もいます。気兼ねなく、それぞれがそれぞれの思いを語り、ありのままにいられる場が作られれば、お母さん自身が自分の殻を脱いで、本音で語り始め、互いから学んでいく関係が生まれてくる。誰かがこじ開けたわけではないのに、人に対する親近感や信頼感が生み出され、前を向いてやっといこうとされる…、本当に不思議なNPの凄さです。

また、NPを経験すると、人のことを放っておけなくなる作用が生まれ、受け身だったお母さんが「子育てしんどいって言ってた友だちを、今度は誘って一緒に来ます」とか、こもっておられた近所の方を連れ「以前の私と同じなんです」と集いの場に出て来られるようなことが起きてきます。NPの副産物とでも言いましょうか…。子育て支援をしていると、よく「元気なお母さんはいいから、もっと孤立しているお母さんを救い上げるようなことを!」という声が聞こえてきます。本当に、そういう人にこそ手を伸ばしたい、支援を届けたいと思います。しかし、そういう人がいったいどこでどうしているのか、地域担当の保健師さんでないとわからないのが現状です。今年度は市から依頼があり、そうした人を対象としたNPを先日終えたところで、NPはやっぱり有効だ!と手応えを感じました。日常の活動の中で私達ができることは、直接的に孤立しているお母さんを引っ張り出すことはできなくとも、そうした人にも心寄せていけるお母さん方を生み出し、そうした人達をタネに地域につながりを広げ肥やしていくことではないでしょうか。

NP経験者が力を発揮

当支援室では、NPを経験したお母さん方が部屋を卒業しても「何かできることがあれば…」と

いろいろな人が育つNP

帰ってきて下さるので、代々NPの保育サポーターとして託児を担ってもらっています。託児する先輩お母さん側も、第2の母となってママを求め子ども達につき合ってくださいますが、改めて幼かった我が子の姿を思い出し愛おしく思うようです。また、預かってもらったお母さん方にとっても、地域に縦のつながりが生まれるようで、スーパーで声をかけてもらったとか、引っ越したら近所に先輩お母さんがいて安心したという声が聞こえてきます。親子で家を出れば、うちの子の事を知ってくれ声をかけてくれる仲間や先輩お母さんがいるということは心強いものです。こうしたつながりをつくっていきけるのもNPならではのようです。

毎年、支援室主催の運動会やクリスマス会を催していますが、この会でも力を発揮して下さっているのは多くのNP経験者です。こちらが企画した会に、みんながお客様で参加するのではなく、「できる人ができることを足し合い作りあげていく」ことをモットーにスタッフを募集し、10組前後のメンバーで4回ほどのスタッフ会を積み重ね、当日を迎えます。名乗りを上げて下さる方はNP経験者が圧倒的に多く、子どもを連れての参加はもちろんのこと、卒業したメンバーも我が子がいなくても一緒に楽しんで場を作ってくださいます。その中で、また縦横のつながりが生まれているようです。

2時間も泣かせて・・・

そしてNPがもたらす効用というのは、子育て仲間や先輩お母さんとのつながりのみならず、世代を超えていくなあという新たな発見もありました。当支援室でNPを開催する時には、いつもNP経験者のお母さん方が託児して下さるので、NPが何たるかを自ら体験されている分、心得て、泣く子につき合いお母さん方を支えて下さいます。

この秋、市の依頼を受けて行ったNPでは、初めて市の託児ボランティアの方々（多くが年配の方）と連携しての開催となりました。代表の方にはNPとはこういうものであるとお伝えし、各々の方にも趣旨を伝えたいお願いプリントを配り、毎回終了後、託児での子どもの様子も聞かせていただく場をとっていたのですが、2回目に60代のメンバーの方から「2時間もこんな小さな子どもを泣かせて、親に返すこともせず、母親が勉強する意味はどこにあるのか!？」と迫られました。「もう少し子どもが大きくなって、落ち着いてからでもいいのではないかと・・・。どうお伝えすればいいものかと一瞬とまどいました。お母さんと離れる体験が初めてで、泣き続ける子につき合っていることにお礼を申し上げつつ、子どもも8回という積み重ねのうちに変化があるはずなので、そこをぜひ見て頂きたいとお伝えしました。「お母さんがいい!」と泣きながらも「泣い

ていたら、この人がいつもお母さんみたいに優しくしてくれる」「ちょっと周りを見てみたら、楽しいことしてたよ」「遊んで待ってたら、必ずお母さんは迎えに来てくれる」という体験を重ねるうちに、子どもにも変化が表れて育ちの場となっていくはずなので、どうかつき合ってくださいたい。お母さん方も、子どもと離れることで、ゆっくり自分の子育てをふりかえる場となっており、仲間と安心して語り合う中で親として育とうとされている所なので、支えていただきたい。もし8回やり終えても、その疑問が解けなければ、もう一度その思いをぶつけて下さい・・・そうお伝えして次週へとつなぎました。

支え手の育ち

ありがたいことに回を重ねる内に、少しずつ子ども達が落ち着き、お母さん方の表情も明るくなっていくことを実感されて、6回目には「言われていたことがわかりました」と言って下さったのは、とても嬉しいできごとでした。また、お母さん方も体験学習を繰り返し、アンテナをあげて学ぼうとされているので、些細なやりとりの中で気づかれることがあります。託児室に迎えに行くと、うちの子がいつものごとく、うまく電車を扱えずに投げ捨てる瞬間だった。いつも私は「ダメでしょう! 投げたら・・・」と叱るのだが、託児の方は「大丈夫、大丈夫!」と息子を慰め一緒にやり直して下さった。すると、いつもはかんしゃくを起こす子が、また遊びを続けた姿に、「ああ、こう言ってやればこの子は落ち着くんだなあ」と気づいた」と・・・このことを託児の方々にお伝えすると、若いお母さんが自分達から子どもの接し方を学んでいる事実を知って、またそのお母さん方を支えていこうとして下さり、回を重ねながらお母さん方の関わり方・表情が変化してくるのを感じて下さるようになりました。育った世代によって子育て観も違って来るものとは思いますが、こうして託児を通して、今の親子の現状を知ってもらい、その親子が育っていく姿を実感してもらおうことで、支え手も育っていくNPの存在意義は大きい! そう実感した瞬間でした。

NPを実施し続けることは、個々のお母さんの子育て力を育んでいくことはもちろんのこと、地域の子育てのつながりを耕し続けることにつながっていると実感しています。親子で遊んだり、季節の行事を楽しんだり、交流会や講話をしたり・・・いろんな子育て支援活動を展開していますが、これからもNPを基盤に、地域に温かいつながりや順送りが生まれてくるような子育て支援を進めていきたいと思っています。

